

基本的な方向	具体的な施策	所管課	事業名	事業概要	具体的取り組み（R4）	重要業績評価指標（5年間）			現状における実績							喫緊の課題	今後の方向性	R4予算状況		
						指標	指標値	単位	R2	R3	R4	R5	R6	実績値	達成率（%）					
I 雇用支援	産業の担い手対策支援	農林課	「モノ・コト・ヒト」Connectもりプロジェクト!	旧教職員住宅を北森カレッジや各種学生のインターンシップ、ワークショップ、合宿として活用することで、森町を知ってもらう機会醸成する。このことにより、若年層の関係人口の創出と定住化促進を図る。	・滞在型の学生コミュニティスペースとして木質空間をPRし、地材地消の取組みと様々な学生が集まる交流施設として展開している。 【R4進捗状況（予定含む）】 ◎北海道芸術デザイン専門学校(8月：5名) ◎武蔵野美術大学地域見学(7月：2名) ◎武蔵野美術大学産学プロジェクト実践演習(9月～10月：5名) ◎北の森づくり専門学院（9月：3名） ◎北海学園大学（10月：4名） ◎北海道大学教育実習生（10月：1名） ◎東京電機大学（3月：5名）	①	北の森づくり専門学院卒業生の就業、定住数	7	件	-	2	-	-	-	2	29%	森町と関係する大学・専門・高校生からの活用が留まっていることから、若年層に届くようにSNS等の活用を強化する。また、地元森高校が定期的な活動ができるように促す。	大学・専門・高校生にまちづくりや仕事（インターンシップ）に関わることで、町の課題を見出し、1次産業のポテンシャルを活かした新たな産業を創出する。	2,019	
			地域ブランド（道南スギ）の新たな掘り起こしと魅力発信	森町は豊富な資源を背景に1次産業が産業構成の主体となっているが、人口減少や高齢化が進み、地域の担い手不足や諸活動が停滞する状況である。このことから、今後地域外の人材を積極的に誘致し、意欲ある若年層による新しい風をおこし、地域力の維持・強化を図ることが求められる。林業・林産業が一体となり新たな産業の創出を図り、若年層向けに魅力ある就業機会となる受け皿を構築し持続可能な産業体制を図る。	・2年目を迎える地域おこし協力隊による道南スギの新規用途品として「ボールペン」を商品開発した。更なる起業に向けてのステップとして消費者の動向を探るため大消費地（札幌・東京）に出店する。また、林業成長産業化モデル事業（渡島総合振興局）の、道南スギのブランド化事業と連携し、地域おこし協力隊が樽の現地研修を受けた上で、樽の試作品を制作する予定。 【R4進捗状況（予定含む）】 ・商品開発した「ボールペン」、「アクセサリ」を各種イベントに展示販売した。 ・サッポロモノビレッジ（11月開催）、無印良品東京有明店（12月開催）に出店予定。 ・秋田県「杏澤製材所」（桶・樽製造）にて、現地実習する予定。	①	道南スギの新規用途開発、ブランド化、就業促進	1	名	-	0	1	-	-	1	100%	函館市、七飯町に新酒蔵建設、北斗市ではワイナリーと相次いで、地酒の新規参入が計画されていることから、地元材による桶、樽等の小間物の要望があり、高次加工技術を活かした製品開発に期待できる。	地域材を活用したもののづくりに興味がある地域おこし協力隊を募集し、道南スギの新たな用途・ブランド化を目指して、若年層が新規創業（起業チャレンジ）できる環境を整えて、就業促進を図る。	0	
			低コスト木造公共施設「森町モデル」	今後、予想される人口減少も踏まえたうえで、公共施設を単に統廃合や複合施設と安易に進めるのではなく森町らしい地域性を活かした小さな拠点づくりを目指し、その地域にあった規模・用途・仕様に応じたコンパクトであり、且つ転用可能な低コスト木造公共施設「森町モデル」を検討する。また、地元木材の品質と加工技術を最大限活かした画期的な新しい建築工法・技法を開発する。	・町民参加型のまちづくりワークショップと温もりがある木造公共施設を目指し、公共施設建築前から町民に関わってもらう「まちづくりワークショップ」を開催し、森町らしい地域性を活かした公共施設を目指す。また、地元木材の品質と加工技術を最大限活かした画期的な新しい建築工法・技法を開発する。 【R4進捗状況（予定含む）】 ・森町モデル推進協議会の開催(5月、8月、10月、1月、3月) ・まちづくりワークショップ開催(6月、8月、10月、11月) ・森トラスの開発(森町産木材の適材適所に活用と地元で製造可能な構造材)	①	町内林業・林産業の育成、就業促進	2	名	-	0	-	-	-	-	0	0%	住宅着工数は年々減少の一途にあり、さらに少子高齢化により木材需要の増加は見込めない状況にある。このことから、非住宅分野等の新たな用途開発により木材需要の創出を図る。	町内の木材需要拡大によって、森林から生産される木材等の収益が増加し地域の素材生産者、林産加工業者、建築工務店などの所得と雇用吸収力が増大し、森林の整備や保全に再び向けられるといった森林資源の循環利用、森林・林業の再生や山村地域の活性化を図るとともに、域外への所得流出を防ぐことで域内全体への経済波及効果がもたらされる地区を目指す。	10,000
			若年層の担い手育成による・定住人口創出支援事業	林業・木材産業の新たな担い手確保のため大学生等のインターン・地域実践実習による就業支援及び木製品加工ができる拠点施設として、元駒ヶ岳大沼家畜診療所を若年層の担い手育成施設として整備する。木製品加工ができる地域おこし協力隊と大学生等が就業体験ができる協創空間として、町内に域外からの流入し続ける状態を創出し、関係・定住人口の創出を図る。	・森高校生、地域おこしインターン生、地域おこし協力隊による拠点施設のリノベーションを実施。デジタル機械（レーザーカッター、CNCルーター等）の導入による、誰でも簡単にものづくり体験ができる場を提供する。 【R4進捗状況（予定含む）】 ・地域おこしインターン生として武蔵野美術大学4年生3名を採用した。 ・森高校リビングデザイン授業にて、道南スギの床張り体験を実施した。 ・小学生を対象にものづくり教室を実施する。	①	地域おこしインターン	10	名	-	-	3	-	-	-	3	30%	森町は森林面積が総面積の76%を占め、豊富な森林資源を背景に1次産業が基幹産業となっているが、人口減少や高齢化が進み、地域の担い手不足により、諸活動が停滞する状況にある。林業・木材産業も同様であり、小規模零細の製材工場は生産量と従業員数が年々減少している。今後伐期を迎える林分も多くなってきており、計画的な伐採と活用の両輪を推進することが重要な課題である。	ものづくりとひとづくり（担い手）が一体となる交流拠点施設は様々な若年層が集まり体験活動ができる「場」となることで、交流人口（3日～5日）、地域おこしインターン（3週間）、地域おこし協力隊（3年）という段階を得ながら、地域を知り・地域と交流することで新たな仕事を創出し、定住促進につなげていく。	4,555
			①	地域おこし協力隊	5	名	-	1	-	-	-	1	20%							
			①	講演会開催等	3	件	-	-	1	-	-	-	1	33%	事業を進めるにあたり関係機関と協議調整が必要になる。	福島大学との連携により、地域産品の研究及び開発などの産業振興支援による地域の活性化を図る。	1,641			
			①	インターン等受入等	15	名	-	-	10	-	-	-	10	67%						
			①	大学連携による若者定住促進事業	森町における若者の定着、定住を推進するため、福島大学と具体的な数値目標を掲げた「協定」を締結し、連携した若者の定着に向け長期インターンシップ等を実施します。	・福島大学教授及び助教陣の講演、学生体験プログラムの実施する。 【R4進捗状況（予定含む）】 ◎もりまち講演会(令和4年9月26日開催) ※講演会で地域見学における学生の発表があった。 ◎地域見学(令和4年9月25日～27日) 見学先：波多野農園、笹川大晃牧場、明井農園、マノワラボ、加藤ブルーン農園、森地熱発電所、地熱交換施設、榎ハルキ、ニチレイ森工場	①	町内企業へのインターンシップ、職業教育実施学生数	30	名	9	11	9	-	-	29	97%	現在締結されている協定は2件であり、事業継続を可能とする受入体制の整備やインターンシップ受入のノウハウを有する企業の育成が必要である。	町公式HPによる事業紹介を行うとともに、これまで町と関係のあった学校を中心に連携協定の説明を行い、新規の連携協定締結を目指す。また、受入企業の登録についても町公式HPにて公募を行う。	2,075
							①	本事業実施による町内就業数、移住数	3	名	-	0	-	-	-	0	0%			
			①	水産課	水産資源安定化対策事業	近年の社会情勢の影響や自然災害等により、魚介類の消費・流通の停滞に伴う取引価格等の値下がりによって、漁家・漁協において収益が減少していることから、将来的な資源として還元するための資源増大事業を実施することで、漁家と漁協の収入の向上と経営の安定を図る。	・資源増大事業の実施や種苗生産及び中間育成を行い、漁業者の資源管理意識の高揚と漁業経営の安定を図る。また、未利用資源の活用で新たな水産資源の流通を図る。 【R4進捗状況】 ・稚ナマコ放流事業 森漁協6万尾、砂原漁協4万尾を放流予定 ・ホタテ稚貝放流事業 砂原漁協210万粒・70トン放流予定 ・コンブ投石事業 森漁協：600㎡分の自然石を投石予定 砂原漁協：210㎡分の自然石を投入予定 ・ナマコ資源増大事業 砂原漁協青年部：47,925個体を放流 ※R3実績 ・未利用資源活用試験事業 森漁協：磯焼けの原因でもありコンブ等の食害を生んでいるウニを約3トン駆除し、その内1.17トンを蓄養試験し、生存率は約62%。 ※R3実績	①	令和4年度から6年度までの森・砂原漁協における新規組合員の加入人数	15	名	-	-	-	-	-	-	0%	近年の社会情勢の影響や自然災害等により、国内外における魚介類の消費・流通の停滞に伴い取引価格等が不安定な中、漁家及び漁協においては厳しい経営を強いられており、収入の向上及び経営の安定化が必要である。	将来的に資源として還元されることを見据えた資源増大事業を実施することにより、漁家と漁協の収入の向上と経営の安定を図る。また、単価の高い資源については種苗生産及び中間育成、放流後の追跡調査を実施し、資源管理意識の向上と漁業経営の安定を図る。

第2次森町まち・ひと・しごと創生総合戦略掲載事業調書

基本的な方向	具体的な施策	所管課	事業名	事業概要	具体的取り組み（R4）	重要業績評価指標（5年間）			現状における実績						喫緊の課題	今後の方向性	R4予算状況			
						指標	指標値	単位	R2	R3	R4	R5	R6	実績値				達成率（%）		
IV 安全・安心	地域公共交通網の形成	企画振興課	みんなで作る地域公共交通プロジェクト	森町の持続可能で最適な地域公共交通ネットワークを形成し、地域住民が利用しやすい交通体系を構築します	<ul style="list-style-type: none"> 地域公共交通会議の設置、運営 地域公共交通網形成計画の策定 地域住民の主体的な公共交通の運営の支援【R2実績】 町内2,000世帯を対象にアンケート調査を実施 鉄道、バス路線の乗降状況を調査 町内5地域において意見交換会を実施 年2回の地域公共交通会議を開催【R3実績】 令和3年度会議を4回開催 森町地域公共交通計画策定【R4進捗状況】 巡回ワゴンバス実証運行 	①	地域住民の主体的な公共交通運営事例	2	件	-	-	1				1	50%	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の利用促進 実証運行での意見集約 	令和2年度は乗降者調査、町民アンケートの実施、地域意見交換会を中心に地域の要望を細やかに収集し、計画に反映させるための情報を整理し、令和3年度にシンポジウム等を開催するとともに計画を策定。 令和4年度以降は計画に基づき各種施策を展開していく。	1,980
																1,980				
その他	持続可能な開発目標（SDGs）の推進	企画振興課	SDGs理解促進事業	森町が実施する事業が持続可能な開発目標として挙げられている17のゴールの達成に向けて実施されるよう努めるとともに、町民や町内事業者向け啓発事業を行うことで町全体でSDGsを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 庁内説明会の実施によるSDGs理解促進 庁内実施事業がSDGsの17のゴールのいずれに該当するか仕分けを実施 SDGsの理解促進を図るための説明会、講演の実施 	①	SDGsの17のゴールに達成に向けた事業の実施件数	10	件	0	2	0				2	20%	<ul style="list-style-type: none"> 町全体のSDGsに対する理解が進んでいない SDGsについて学ぶ機会が用意されていない 	各課で実施している既存事業の中でSDGsに関連の深い事業を抽出し、17のゴールに関連付ける作業を行うなどSDGsの理念について庁内の理解を深めるとともに、町民や町内事業者向けの啓発事業を検討していく。	0
																0				
総額															108,241					